



報告

杏林大学生の意見聴取結果について

子ども家庭部子育て支援課
令和5年12月

意見聴取の概要

項目	内容
調査目的	大学生世代の意見を聴取し、今後の市政運営および「(仮称)羽村市こども計画」の参考とする。
調査時期	令和5年6月～11月
調査対象者	杏林大学の学生
調査方法	市から施策の講義を行い、その後、以下の手法で意見聴取を行った。 ①授業を活用した紙ベース、インターネットフォームのアンケート ②杏林大学生との対面による意見聴取

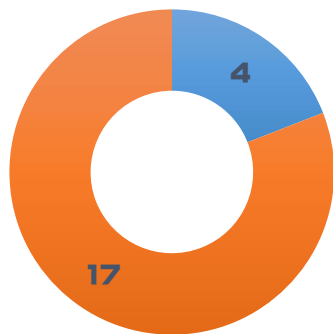


1

**授業を活用した紙ベース・インターネットフォームのアンケート
結果報告**

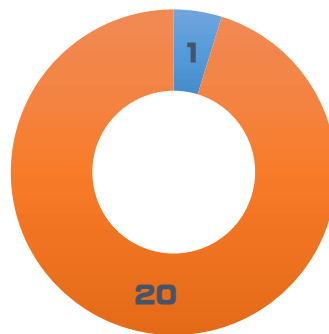
回答数 **21** 件

性別



■ 男性 ■ 女性

年齢



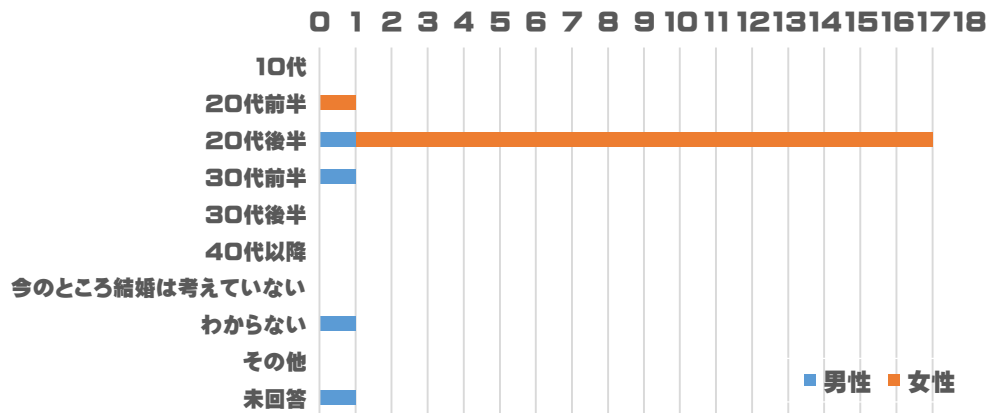
■ 10代 ■ 20代

居住地



■ 羽村市在住 ■ それ以外

結婚したい理想の時期はいつ頃ですか？



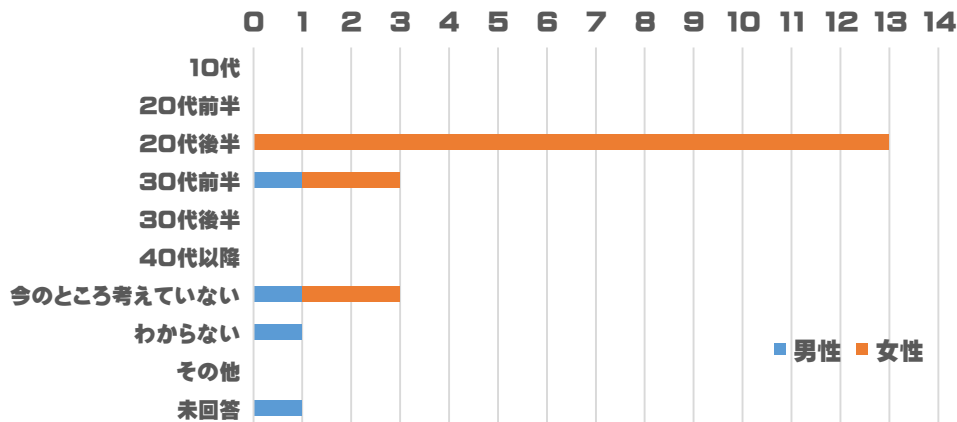
回答の傾向

- 20代後半が一番多く、17件の回答があった。
- 特に女性の多くは20代後半と回答していた。(18人中17人)
- 30代後半以降を回答した方はいなかった。

そう考える理由を教えてください（抜粋）

- ✓ 28、29歳の自分が自立して余裕が出てきたくらいに結婚出産を考えるのにちょうどいい時期だと思いました。
- ✓ 就職して数年経ってからしたいと考えているから。
- ✓ 現在の社会情勢を考慮すると、物価高の上昇や様々な費用の高騰があり、金銭面的に20代では不安が残る。また、就職後数年就労し、心身ともある程度安定した状況下で結婚には至りたい。
- ✓ 今後、子供を持ちたいと考えた時、30歳以降ではリスク面で出産に不安が出てきたり、子育てで自身の親を頼ろうと考えた時、年齢面で難しくなるのでは無いかと考えたため。
- ✓ 就職後は仕事で多忙となり、慣れない環境の中での早婚は難しいと考えます。また、生活していくうえで最低限度の所得は必要であり、貯蓄不足のために支出を減らすよう努めなければならない等のデメリットが挙げられます。一方、晩婚は家庭を持つことに対する価値観の変化により実現しにくいと考えます。以上の理由から、30代前半が理想であると私は考えます。

こどもを持ちたい理想の時期はいつ頃ですか？



回答の傾向

- 結婚の時期と同様に、「20代後半」が一番多く、13件の回答があった。
- 次に多いのが「30代前半」「今のところ考えていない」であり、3件の回答があった。
- 30代後半以降を回答した方はいなかった。

そう考える理由を教えてください（抜粋）

- ✓ 30代前半で子供を持つことで、20代は自分の好きなように生きられる。
- ✓ 二十代のうちに子供が欲しいから
- ✓ ある程度貯金ができ、社会人としてのキャリアも積み、体力のある時期だと考えるから。自分の親がそうだったから。
- ✓ 体力があるうちに子供を産みたいから。
- ✓ 自分自身がまだ未熟であると考えているので、こどもを育てられる自信が無いから。自分のやりたいことがあるので、自分のために時間を使いたい。
- ✓ 子供が大人になっても若い自分でしたから。
- ✓ 若すぎる出産はキャリアを積むうえで障害になると考えたから。1回キャリア形成をした後に妊娠・出産を考えるとできると思います。

結婚・子育てをする自分を考えた際に、羽村市の施策を見て、または自分が育ったまち、今住んでいるまちの施策を思い出して、こんな支援・サービス・環境があるとより子育てしやすい、というものを教えてください。

金銭的な支援、男性の育児参画、相談援助サービスの意見が多く出ました。

- ✓ 相談する機会をたくさん作っていて何か意見があった時も言いやすいのではないかと感じた。
- ✓ 幼稚園の入園に余裕があることは親にとってありがたいことだと感じた。幼稚園に子供を預けたいのに預けられない問題があると様々な問題につながるとえるからだ。自分の育った場所では子供会があり、小学校の違う友達をつくることができた。このような新しいコミュニティがあったのはすごく良かったと思う。
- ✓ 子育て支援センターに行くことも億劫になってしまう妊婦さんも多いはず。その一方で、支援を受けたくても役所の時間が合わず支援を受けることができない働き手(旦那さん等)も多いと思う。そこでさまざまな時間での支援や、妊婦さんだけでなくそのパートナーが支援を受けることを考えた時間設定、プログラムを考えるべきだと思う。
- ✓ 物や食べ物などの支援、カウンセラー
- ✓ 男性を対象とした育児への理解を深めるための講座。夜遅くまで子どもの面倒をみってくれるサービス。
- ✓ 今住んでいる街の政策はあまり詳しくありませんが、ひとり親でこどもを育てていたり、孤立する環境にある人に支援を行うと良いと思いました。金銭的な支援。
- ✓ 子供だけで安全に遊べる場所
- ✓ 女性のみならず男性の家事育児参加がしやすい場所が良い
- ✓ 実際に足を運ぶと大変なので、チラシ等で子育て支援の情報を該当する家庭に送るような制度。
- ✓ 出産したばかりの時に、育児で気をつけること、赤ちゃんとの接し方などの講座を受けられる場があると良い。そして実際に親子で訪れ、育児の方法や接し方などを実践的に行える講座があると良い。
- ✓ 両親学級・母親学級というのは、私が育った地域ではないので、非常に良いサービスだと思う。また、男性の育児参加を促進するならば、父親学級も設置すると良いと思う。
- ✓ 義務教育の間の医療費負担の軽減、もしくは医療費無料があればなお、子育て世代には暮らしやすいまちになると考える。都心からの距離を考えた交通網の充実が必要だと思う。通勤を考えても交通費が嵩むことを考えると転出する人がいると思う。

「こどもまんなか社会」と聞いて、どんな社会をイメージしますか？
また、その社会を実現するために、未来の自分ができること、取り組むことは何ですか？

イメージ

子どものためにアクションしている、子どもが過ごしやすいハード面など様々なイメージの意見がありました。

- ✓ 子供を連れての外出がしやすいことや公園など子供が遊ぶ場所がたくさんありそうなイメージ
- ✓ 親だけではなく社会で子供を育てていくイメージ。
- ✓ 子供が暮らす生活環境が平等である社会。
- ✓ こどものために配慮している社会。
- ✓ 子どもの権利を重要視した社会。
- ✓ こどものことを大切にして、一番にこどものことを考える社会。
- ✓ 子ども目線でルールを作った社会
- ✓ 子どもが中心の社会。例えば、会社のなかでも育児のために休むのが普通であるような社会。
- ✓ 子どもが過ごしやすい社会
- ✓ こどもが健やかに育つような環境が整った社会というイメージがある。
- ✓ 全ての子供にあらゆる選択肢がある社会のようなイメージがある。
- ✓ 子どもがいる家庭のデメリットがない社会。
- ✓ こどもを中心とした社会、こどもを第一に考える社会。

取り組むこと

子どもと関わる、接する、コミュニケーションを取る、居場所づくりなど様々な意見がありました。

- ✓ 自今の住んでいる地域の子供とたくさん関わるのが大切と考える。
- ✓ 子供の友達や、そのお母さん・お父さんとコミュニケーションをしっかりと取る
- ✓ 子供の目線になって接する。
- ✓ 子どもと過ごす時間を大切にしたい。
- ✓ 子どものために色々な制度を整える。
- ✓ 子どもとの接し方などを積極的に学ぶ
- ✓ 子どもがいるとお金がかかるという考えを少しでも減らしたい。
- ✓ 実際に子育てする際に、なるべく子どもに決定権を与えられるようにする。
- ✓ 子どもたちが安心して暮らせるように、治安を維持したり、SDGsに貢献できるような行動を心がける。
- ✓ 税金をしっかり納め、施策に協力的になる
- ✓ 自分がこどもを持っていなくても、地域のこどもに優しく接したり、見守ったりする地域全体でこどもを守ること。
- ✓ 不安や悩みを抱えているこどもに対して大人が耳を傾け居場所を作ることが必要だと思う。

自分がこどもの時に困ったこと、壁にぶつかった時を思い出してもらい、そこからこんな支援・サービス・環境があったら助かったなあ、というものを教えてください。

金銭的な支援（特に進学）、相談援助支援などが多く出ました。

- ✓ 相談室のようなものが欲しかった。学校や児童館において家族以外にも悩みを相談できる場所があればいいなと考える。
- ✓ 自分が育った市では、医療費に関して中学生まで無料であったが、高校からは3割負担という形になっていた。そのため、部活動等だけがをした際や風邪を引いた際などに小・中学校時代はすぐに行くことができたが、高校からは病院へ行くことに躊躇いも生まれていたため、こどもからの視点として高校まで医療費無料を延長してほしい。
- ✓ 大学の教材費助成制度、教育費助成制度、大学の教材費助成制度
- ✓ 親が急に入院しなければいけなくなった時、仕事を休まなければいけないのでご飯や生活の支援があると助かると思う。
- ✓ 部活以外にもクラブチームに行って教えてもらいたかったが、車社会の地域で送迎が出来なかったのでそういったところに行けなかった。なので、公共交通機関が発達していればよかったと思う部分はあった。しかし、公共交通機関が発達していないおかげで出来た思い出もたくさんあるので、発達している地域とそうでない地域どちらにも良さがあると思う。
- ✓ 習い事をいくつかしていたが、他にもやってみたいものが多かったので、小さい時からやりたいことを支援してくれる政策があったら嬉しいです。
- ✓ 小学生の時、友だちと2人で下校中に住んでいる県外で起きた地震の緊急速報が地域全体に流れたことがあった。家族と連絡する手段も無いし、どうしたらいいか分からなかったのが怖かった。子どもだけにいる際に災害が発生した時、自分たちの居場所を周囲に知らせる物があったら良かった。また、避難訓練は学校内でしていたものの、外にいる時の対策はその当時全く頭になかったため、登下校中に災害が起きた場合にどうするかを学校で学ぶ機会がほしかった。
- ✓ 気軽に相談できる場所。学校に限らず、地域の中でなんでも話せる人。カウンセラーみたいな存在。地域の学童みたいな場所。
- ✓ 学校の人間関係に対して、悩むことが多かったので、相談ができる両親や学校の先生以外の第三者と気軽に話せる環境があればよかったと思います。
- ✓ 顔も何をしてるかも全く知らない人に相談できるもの（対面ではなくLINEや気軽に話せるもの）があると良い。理由は会ったことのある人だと相談しづらいから

今までの人生の中で、学校と自宅以外に自分の居場所である、と感じられた場所があったら教えてください。明確に場所でも、共通の趣味のある友達の中などの概念的なものでも構いません。


祖父母宅、アルバイト関係の回答が多い傾向にありました。


- ✓ アルバイト、アルバイト先 4件
- ✓ 祖父母の家 4件
- ✓ 友達の家 3件
- ✓ 児童館 3件
- ✓ 恋人の家、恋人と一緒にいるとき 2件
- ✓ 趣味の友達
- ✓ インターネット
- ✓ 学童
- ✓ 乗馬施設
- ✓ 図書館、本屋、CDショップ
- ✓ 近所の公園、通学路
- ✓ 友達とほとんど毎日放課後に通っていたレストラン。
- ✓ 高校・大学で出会った友人という時
- ✓ 保育所、小学校、中学校と過ごす中で同級生がほぼ変わらなかったのもみんな仲が良かったので居場所はとて多かったと思う。部活で切磋琢磨してる仲間やカードゲームが好きな友達、音楽の趣味が合う友達など様々なジャンルで関わる友達が多かった
- ✓ マンションに住んでいたため、マンションの下の遊び場や駐車場で同じマンションに住んでいる友達と毎日いました。
- ✓ 学校にある「わくわく」と呼ばれる待機施設、同じマンションの友達の家、公文

子育て、結婚、将来への不安、また自分の居場所や今までの経験について、これまでの質問以外にご意見や思ったこと、感じたことがあれば、どんなことでも構わないので教えてください。

将来的な子育てに関する不安の意見が多くでした。

- ✓ 弟が3歳なので産まれてから今までをみていて、費用がかかっていたり、預けられる場所がなくて、抽選で外れて入れなかったりと困っている場面を見て、将来自分が子育てする時に同じような体験をすると考えるととても大変だなと考えた。また、周りの協力がないと子育てはすごく大変だなと思った。相談できたり、預かってもらえる場所があるだけで親の負担やストレス面の軽減ができるのでそういう場所は必要だなと考えた。
- ✓ 自分が子育てをするとなったとき、一人目の子どもを育てる際は、子育てというものをよくわからない状態で子育てしなければならないため、自今の両親が近くに住んでいない場合、たくさん悩んで自今の心がつかなくなってしまわないかなという不安があります。また、両親が共働きの子どもたちが両親が帰ってくるまでの間、学童以外にも楽しく過ごすことができる施設があればいいのかなとも思います。
- ✓ 物価上昇や保育施設の減少、温暖化などが進み自今に子どもができた時、安心して子育てをすることができるのか不安を感じる。
- ✓ 今、私は結婚していない上に子供もいないので、地域全体で子供を守ろうと言われても、どこか他人の子供であるという意識があります。その上、子育てしている人たちと独身の人たちは、地域の中でも属しているコミュニティが違うように感じられます。結婚・子持ちの世代は住んでいる地域と深い関係があると思われそうですが、結婚・出産を意識していない、働いていたり学生の独身の人はその関係が希薄なのではないでしょうか。住んでいるところ以外にも居場所がたくさんあり、わざわざ地域のコトに関わろうとしないと思います。もちろん、子供に優しい社会の形成は治安が良くなったり、優しい街になるのでその部分ではいいと思います。
- ✓ 子育てに協力したい気持ちがとても強いので会社も育休ができる会社に行きたいが、男が育休を取ることが良い風潮か気になる。
- ✓ 将来について、金銭面がとても不安。
- ✓ 子どもを産んでも大学まで余裕を持って育てることができる自信がなく、好きなものを満足に買ったりしてあげられないのではないかと考えると、あまり簡単な気持ちで子どもを産もうと考えてはいけなと感じている。
- ✓ 自分が大人になった時に子育てできる社会かどうか。
- ✓ 仕事と子育てが両立できる環境が整っているかどうか
- ✓ 産んだばかりの時、子どもに与えてはいけない食べ物などを知らないこと、いままで実家暮らしで生活してきたので、結婚するとなると、暮らす上でのさまざまな支払い関係や手続き等のやり方がわからないという不安がある。



 羽村市 子育て支援課
 子育て支援課 調査票
 子育て支援課 調査票



羽村市子育て支援施設に関するアンケート

2024年10月1日～2024年10月31日実施 | 2024.10

皆様からは、このお便りを一通りご覧いただき、子育てに関する施設や政策を社会の良しから
 探していただきたいと考えています。このアンケート結果を参考にさせていただきます。
 調査結果の参考にさせていただきます。以下のアンケートについてご協力をお願いいたします。



Q1) 送迎の回数についてお答えください。

送迎回数	<input type="checkbox"/> 1回	<input type="checkbox"/> 2回	<input type="checkbox"/> 3回
送迎時間	<input type="checkbox"/> 朝	<input type="checkbox"/> 昼	<input type="checkbox"/> その他
送迎場所	<input type="checkbox"/> 羽村市立児童館	<input type="checkbox"/> 市民会館	<input type="checkbox"/> その他

※送迎の回数や時間、場所を複数記入してください。

Q2) 送迎の回数・時間で送迎を受ける頻度はどのくらいですか？

1-1) 送迎回数によって送迎を受ける頻度はどのくらいですか？

10回以上 5回～10回未満 3回～5回未満 2回～3回未満 1回未満
 送迎なし 送迎回数や頻度はわかりません その他()

1-2) その他送迎回数や頻度を教えてください。

1-3) この送迎回数や頻度についてお答えください。


10回以上 5回～10回未満 3回～5回未満 2回～3回未満 1回未満
 送迎なし 送迎回数や頻度はわかりません その他()


1-4) その他送迎回数や頻度を教えてください。

Q3) 送迎サービスを受ける際の料金について、送迎料の負担を教えてください。送迎料はどのくらい負担されていますか？

1000円以上 500円～1000円未満 300円～500円未満 100円～300円未満 100円未満
 送迎なし 送迎料はわかりません その他()




 羽村市 子育て支援課
 子育て支援課 調査票
 子育て支援課 調査票



Q4) 「この送迎サービスを利用する際、送迎料をどのくらい負担されていますか？送迎料の負担を軽減するための、送迎料の負担軽減策について、お答えください。」


※送迎料の負担軽減策についてお答えください。

Q5) 送迎サービスを利用する際、送迎料をどのくらい負担されていますか？送迎料の負担を軽減するための、送迎料の負担軽減策について、お答えください。

Q6) 子育ての人生の中で、送迎サービスを利用する際、送迎料をどのくらい負担されていますか？送迎料の負担を軽減するための、送迎料の負担軽減策について、お答えください。

Q7) 送迎サービスを利用する際、送迎料をどのくらい負担されていますか？送迎料の負担を軽減するための、送迎料の負担軽減策について、お答えください。

送迎料の負担を教えてください。


 羽村市子育て支援施設に関するアンケート | <https://www.city.hamura.lg.jp/> | 調査票 - 子育て



杏林大学生との対面による意見聴取

結果報告

項目	内容
日 時	令和5年11月8日(水) 15時～16時30分
場 所	杏林大学三鷹キャンパス
参 加 者	杏林大学 13名 羽村市 6名
実 施 方 法	対面による意見聴取

どのようなところで結婚・出産・子育てに関するイメージが湧きましたか？

- ✓ 自今の親以外では、親戚の子育てを見てイメージが湧きました。
- ✓ テレビドラマで、出産と自身のキャリアの狭間に悩む女性社員がいて、その印象が強いです。

今回の意見聴取前に結婚・出産・子育てに関して自分の中で考えていたことはありますか？

- ✓ 意見聴取前に具体的に考えたことはありません。
- ✓ 意見聴取を受けるにあたって、考える機会となりました。

結婚・出産・子育ての理想と現実の間で、なぜギャップが生まれてしまうと思いますか？

- ✓ 就職する20代前半から中盤だと仕事が忙しかったり、40代になると遅いのかなと感じています。そういったところで、ギャップが生まれてしまうと思います。

もし、自治体が結婚などのマッチング支援を実施した場合参加してみたいですか？

- ✓ 自今の出生地は人口が少ないので、出会いのきっかけとして参加したいと思います。

市からの子育てに関することなどの情報発信について、どのような手段が有効だと思いますか？

- ✓ SNSは活用しているが、市からの広報や自治体からの周知は見たことがありません。
- ✓ LINEやインスタグラムは使う機会が多いです。
- ✓ 親の勧めで、住んでいた自治体のLINEは登録しましたが、きっかけは災害情報でした。子育てに関する情報は、自今がまだ当事者ではないので、見たことはありません。また、観光を学んでいるので、自今の住んでいる自治体の情報を知りたいと感じたためです。
- ✓ 自今が行った飲食店に情報があるのであれば、見る可能性は高いかもしれません。

居場所や空間にどのような機能があると利用したいと思いますか。

- ✓ 自分が中高生の時は区民センターに通っていたが、その時は体育館が併設されていて、バスケットボールなどができました。
- ✓ 現在、子ども食堂にボランティアで通っています。学童クラブのようになっており、食事も提供している場所です。そこで大切なのは、「誰かがいること」「さみしくない」ことだと思います。
- ✓ できるだけ小さい頃から、海外の人と交流できたり、話せる機会があるとグローバルな視点をはぐくむことができたかなと思います。

児童館に求めることはどのようなものですか。

- ✓ 閉館時間が21時頃だと部活が終わった後も行けるので、行ってみたいと思います。
- ✓ フリーWi-Fiのニーズは高いと思います。
- ✓ 勉強できる空間があると良いと思います。
- ✓ バスケットゴールがある体育館の機能があると良いと思います。

気軽に相談できる場所はどのような場所だと思いますか。

- ✓ 「相談室」など相談機関とわかってしまうと、誰かに相談しているとわかってしまうため、そういう目で見られてしまうことが気になります。
- ✓ 行政が設置している相談機関だと信頼できると思います。
- ✓ 電話やオンラインなどの方が誰かに見られたりしないので、相談しやすいと思います。
- ✓ ボランティアで通っている子ども食堂では、「何か話したいだろうな」と思う子どもがいます。そのような場所に相談できる人がいると良いと思います。

男性と女性の育児の負担について、女性の方が負担が大きいですか？

- ✓ 子どもは母親が好きで、母親がいないと泣いてしまうので、母親の方が大変なイメージがあります。
- ✓ 身体的な負担も母親の方が大きいと思います。
- ✓ まだ、父親が仕事をして、母親が育児をするという慣習が残っている例もあると思うので、そう考えると育児の負担は母親が大きいと思います。

どのようなサービスや制度があれば、育児に関する男女の格差の解消につながると思いますか？

- ✓ 父親を対象とした育児講座などは参加している人が少ないのではないかと思います。

自分の過去を振り返って頂き、自分がやりたいことなどを進めるときに壁となった経験はありますか？

- ✓ 公園で遊ぶことについて、制限されることが多くなってきていると思います。
- ✓ 学校選びをする中で、私立学校はお金がかかるため、制限をかけてしまった部分があります。例えば、私立学校も無償化などの制度があると、進路の選択肢は広がるかなと思いました。